

海岸まで突き出ている禿山が、熊碓村を小樽から区切っていた。その崩れそうな崖下のデコボコ道を廻ると、ゆるやかに彎曲している浜の漁村が一眼に見えるところへ出る。

「同志田口の感傷」

散策 小林多喜二展 作品と共に街を歩こう

2026年4月1日(水) ▶ 6月21日(日)

手宮の街の中央には河が流れていて、その両側が高くなり両方の屋並が向い合っていた。どの家も煤けた同じ型の長屋で、それが階段に沿って規則正しくならんでいた。……河しもの、活動常設館のある少し広い通りに「公設市場」があつて、その附近の道端に「市」が立った。ビールの空箱の上に戸板を渡して、魚や、野菜や、沢庵や、豆腐や、煮豆や佃煮をならべたのが両側にぎっしり並んだ。

「転形期の人々」

市立小樽文学館

〒047-0031 小樽市色内 1-9-5 tel.fax.0134-32-2388

主催：市立小樽文学館 後援：小樽文学舎 協力：小樽多喜二祭実行委員会